

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年11月22日(2007.11.22)

【公表番号】特表2007-508433(P2007-508433A)

【公表日】平成19年4月5日(2007.4.5)

【年通号数】公開・登録公報2007-013

【出願番号】特願2006-534750(P2006-534750)

【国際特許分類】

C 09 D 201/00 (2006.01)

C 09 D 7/12 (2006.01)

【F I】

C 09 D 201/00

C 09 D 7/12

【手続補正書】

【提出日】平成19年10月1日(2007.10.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

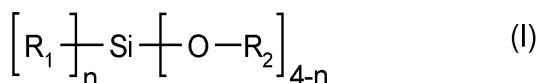
【特許請求の範囲】

【請求項1】

a) 有機被膜形成バインダ、および

b) 金属アルコラート、金属ハロゲン化物、または式(I)：

【化1】



(式中、

R<sub>1</sub>は、C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル、C<sub>5</sub>～C<sub>8</sub>シクロアルキル、フェニル、またはC<sub>1</sub>～C<sub>4</sub>アルキル置換フェニルであり、

R<sub>2</sub>は、C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキルであり、そして

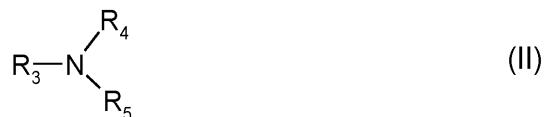
nは、0、1、2、または3である)で示される化合物の塩基を用いての加水分解を含む方法により製造した、水性またはアルコール性の溶媒に分散させた小さな粒子サイズの無機添加剤

を含む、コーティング組成物。

【請求項2】

塩基が、式(II)：

【化2】



(式中、R<sub>3</sub>、R<sub>4</sub>、およびR<sub>5</sub>は、互いに独立に、水素またはC<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキルである)で示されるアミンである、請求項1記載のコーティング組成物。

**【請求項3】**

無機添加剤の粒子サイズが2～300nmの範囲にある、請求項1記載のコーティング組成物。

**【請求項4】**

顔料、染料、充填剤、流れ調整剤、分散剤、チキソトロープ剤、接着促進剤、酸化防止剤、光安定剤、および硬化触媒からなるクラスから選択される成分1つ以上を更にを含む、請求項1記載のコーティング組成物。

**【請求項5】**

第1の成分(a)と成分(b)とを混合する工程；常圧下、50～140 の温度範囲で、溶媒の大部分または全てが蒸発するまで溶媒を蒸留する工程；そして場合により、第2の成分(a)を添加する工程を含む、請求項1記載のコーティング組成物の製造方法。

**【請求項6】**

請求項1記載のコーティング組成物を基体に適用し、次いでそれを乾燥および／または硬化させることを含む、基体を保護するための方法。

**【請求項7】**

表面の耐引撞性が改良された強化コーティングを製造する方法であり、請求項1記載のコーティング組成物で該表面を処理し、次いでそれを乾燥および／または硬化させることを含む方法。

**【請求項8】**

表面用のコーティング組成物における、コーティングの強化剤および耐引撞性の改善剤としての、請求項1記載の成分(b)の使用。